第9回和光市下水道事業運営審議会会議録

平成27年11月25日（水） 監査室

第 9 回 和 光 市 下 水 道 事 業 運 営 審 議 会			
開 催 日	平成 2 7 年 1 1 月 2 5 日 (水)	開会時間	1 4 時 0 0 分
会 場	市役所 3 階 監査室	閉会時間	1 5 時 3 0 分
委 員 の 出 欠	出席	欠席	事務局
	長坂 敏史 山田 智好 長坂 滋 岩崎 泰嗣 本橋 淳男 富澤 美代 今井 千津子 船越 靖彦 萩原 三枝子		上下水道部長 松橋 香二 上下水道部技監 中川 直也 下水道課長 深野 充司 下水道課統括主査 金井 宏之
			傍聴者 1 名
議 案	(1) 会議録署名委員の選出 (2) 下水道の経営状況について (平成 2 6 年度決算状況報告等) (3) 上半期下水道事業業務状況説明		

発言者	内 容
下水道課統括主査	<p>開 会</p> <p>こんにちは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>それでは第9回和光市下水道事業運営審議会を開催いたします。</p> <p>また、本日の審議会の会議は、和光市下水道事業運営審議会条例第6条第2項の規定により過半数の出席を得ております。</p> <p>お手元の次第に沿って進めてまいります。</p>
長坂会長	<p>それでは、議事に入らせていただきたいと思います。</p> <p>はじめに、本日の会議録署名委員の指名をすることになっておりますので、指名したいと思います。</p> <p>第3号委員の富澤委員と第4号委員の萩原委員にお願いしたいと思いますが、両委員、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>・両委員了承</p> <p>異議なし。</p>

長坂会長

それでは両委員、よろしくお願ひいたします。

次に、議題(2)につきまして事務局から説明をお願いします。

下水道課課長

それでは、議題(2)下水道の経営状況について、ご説明いたします。

お手元の資料「平成26年度埼玉県和光市下水道事業決算報告書」をご覧ください。

今回、企業会計化してから最初の決算で、先の9月定例議会において審議され、全員賛成で可決されたものです。

まず、1ページから4ページをご覧ください。3、4ページの資本的収入及び支出につきましては、4条予算と呼んでいるもので、以前にもお話ししましたが、例えるなら皆さんがローンを組んで家を建てると、その家は資産（固定資産）になりますが、そのように管渠の築造や施設の建設など、主に資産価値を生むものに支出したり、そのために借り入れるお金などを表記しています。

これに対し、1、2ページの収益的収入及び支出につきましては、3条予算と呼んでいるもので、資産を維持管理していくために使うもの、例えるなら家の修理費や光熱水費、家具など調度品費等に当たるもので、管渠の修繕費や施設の光熱水費などを表しています。

ここで、2ページ及び4ページの上段中ほどの「予算額に比べ決算額の増減」の欄をご覧ください。4ページのマイナス分とほぼ同額が2ページと同欄の増額分になっていることがお分かりと思います。

これは、主に負担金と補助金の取扱いにおいて、次の理由から決算時に精査した結果生じたことです。

負担金は、市から資金をもらって事業を進めていく際に受け取るお金です。

また、補助金は、下水道事業を企業化して間もないということから、下水道事業を維持していくために市から少し援助をいただいております。

通常、予算は前年度に組むのですが、平成26年度の予算を組んだ平成25年度の段階では、負担金と補助金の区別が曖昧でした。平成26年4月以降に負担金と補助金の考え方に関する総務省の指針が出ましたが、我々が考えていた内容とは大幅に異なるものでした。

指針によると、雨水に関するものは全額市の負担金の対象となるのですが、汚水に関しても、水質検査や荒川右岸流域下水道の処理に係る負担金の一部等の事業について市の負担金等の対象となりました。

これらを踏まえて決算を行ったところ、3条（収益的収入及び支出）と4条（資本的収入及び支出）のバランスが非常に悪い結果となりました。

具体的には、決算報告書2ページの「予算額に比べ決算額の増減」中、下水道事業収益が約1億6千万円の増額となっています。これに比べ、4ページの「予算額に比べ決算額の増減」では、資本的収入が約1億7千万円のマイナスとなっています。

しかし、あくまでも予算額に対する決算額ですので、事業内容に大きな失敗があっ

たということではございません。

今年度は、負担金と補助金の関係を精査して予算を組みましたので、この点において平成25年度の予算とは異なります。

詳細については、決算の説明において触れていきます。

決算書5ページの平成26年度和光市下水道事業損益計算書をご覧ください。

この資料は、どのような収益及び費用があったのかを示しています。なお、この資料は消費税抜きの数値です。

まず、1 営業収益について説明いたします。

下水道使用料収入は、約5億8千万円でした。税込みでは約6億3千万円でした。

他会計負担金は、先程説明したとおり市に負担していただいたお金で、雨水を処理するために充てた費用です。雨水管の整備やこれまで雨水管の整備等に充てるために借り入れた分の利子の返済に充てた分です。

その他営業収益は、指定工事店の更新手数料や、排水設備工事責任技術者の登録手数料が含まれています。

次に、2 営業費用について説明いたします。

管渠費の雨水は、雨水管渠の維持管理や消耗品等の購入等に充てた費用です。

管渠費の汚水は、汚水管渠の維持管理や消耗品等の購入等に充てた費用です。雨水に比べ、汚水の割合が高くなっています。

総係費には、人件費及び年間約3億円の荒川右岸流域下水道維持管理負担金等が含まれています。

減価償却費は、管渠等の下水道事業の資産の劣化分を償却する費用です。これは、一定の比率で計算し、計上しています。

資産減耗費は、破損等により資産が完全になくなったものを計上をしていくものです。

次に、3 営業外収益について説明いたします。

受取利息及び配当金は、銀行口座の利息が計上されています。

他会計補助金は、先程説明したとおり、市から援助していただいているお金です。

続いて、長期前受金戻入ですが、これは、平成26年4月に会計制度が新会計方式に移行したことに伴い加わったものです。これまで市は、国や県から補助金を受けて事業を行う場合、その補助金を「みなし償却資産」とし、プラスの資産としていました。

しかし、この処理は民間における会計の認識とは異なっていることから、補助金の

分についても減価償却の対象とすることになりました。

ところが、これまでプラスの処理をしていたものを突然マイナスの処理に変更するとなると、公営企業は赤字になってしまいます。公営企業は倒産するわけにはいかないのですが、公営企業会計では、減価償却や長期前受金戻入という現金以外の収支も計上していることから、現金はプラスになって残っています。

雑収益は、下水道事業が持っている土地の一部を、NTTや東京電力等にお貸ししていることに伴う占用料の収入です。

次に、4 営業外費用について説明いたします。

これは、下水道の管理以外に必要な費用です。

支払利息及び企業債取扱費は、過去から借りているお金の利子の支払いにかかるものです。

雑支出は、消費税等の支払いに係る費用です。

次に、5 特別利益について説明いたします。

過年度損益修正益は、過年度分の収益です。過去の使用料等で当年度に収納された分が計上されています。

次に、6 特別損失について説明いたします。

過年度損益修正損は、過去に遡って還付に要した額です。たとえば、排水設備の故障等により漏水が発生した場合、その水が下水道を通らず、地中に流れたと認められたときなどは減免の対象となりますので使用料を還付することとなります。

その他特別損失は、下水道事業の会計が特別会計から企業会計に変更になったことに伴い生じた費用です。市の財政は、4月1日から5月31日までの出納閉鎖期間が設けられていますが、下水道事業は、企業会計に移行する際、平成26年3月31日で会計を締める「打ち切り決算」を行ったため、会計処理のずれにより費用が発生しました。このような理由から、次回の決算では、その他特別損失の金額はそれほど大きな額にはならないと考えます。

以上の内容から、純利益は、4千999万537円となり、約5千万円の利益が確保できました。

この純利益に、前年度から引きついだ前年度繰越利益剰余金を含めると、約1億500万円の利益となりました。

以上が平成26年度和光市下水道事業損益計算書の説明になります。

次に、決算書9ページの平成26年度和光市下水道事業剰余金処分計算書をご覧ください

ださい。併せて、お配りした資料の地方公営企業法の条文をご覧ください。

地方公営企業法第30条には、決算に関する基本的な事項が定められており、第32条には、剰余金の処分等について定められています。和光市下水道事業は、第32条第2項により、平成27年9月議会に剰余金の処分に関する議決を求める議案を提出し、可決されましたので、「(案)」を二重線で消した状態(「~~(案)~~」)に修正しました。

今回、長期前受金戻入の額は約1億3千万円でしたが、この額は、実際に収入した額ではないため、当年度純利益と前年度繰越利益剰余金(当年度期首)を合計した額から差し引くこととなります。その結果、今回は約3千万円のマイナスとなりました。これは、繰越欠損金として次年度に繰り越して清算していきます。

本来、この数字はプラスになることが望ましいのですが、企業化して一年目だったということもありますが、収支バランスは良い結果になったものと考えております。今後清算を進めるにつれ厳しいことと考えておりますが努力して参ります。この結果は、現金が不足したということではございません。財産の価値に当たる部分を含めた結果であり、経営状態を圧迫する状態ではないことをご理解いただきたいと思います。

次に、決算書11ページと12ページの平成26年度和光市下水道事業貸借対照表をご覧ください。

まず、資産の部、1固定資産の(1)有形固定資産から説明いたします。

有形固定資産は、土地や建物の価値を金額で表したものです。

構築物、機会及び装置、車両及び運搬具、工具器具及び備品も同様です。

建設仮勘定は、前年度に設計した工事を翌年度に実施する場合等に翌年度の工事が終わるまで設計に要した額を計上しておく勘定です。

市が工事をする際、設計をした翌年度に工事を行うのが通例となっています。前年度の設計に要した額は翌年度の工事費と併せて清算することとなるため、一旦建設仮勘定に計上することとしています。そのため、この金額は、平成27年度の決算で一緒に清算いたします。

1固定資産の(2)無形固定資産は、施設利用権となります。先程説明した荒川右岸流域下水道に利用料として負担している金額です。

1固定資産の(3)投資その他の資産は、まず出資金として県の下水道公社に対する支出金が計上されています。

長期貸付金は、水洗便所への切替えに際し、無利子で貸し出した資金を返していたっているものです。最高30万まで貸付けを行っています。

続いて2流動資産について説明いたします。

2流動資産の(1)現金預金については、資料として添付した通帳の写しをご覧ください

い。

2 流動資産の(2)貸倒引当金は、使用料で回収しきれない分の金額で、5年の時効が到来したものを不納欠損として処理した金額です。

1 2 ページの負債の部に移ります。

3 固定負債と4 流動負債の両方に企業債がありますが、固定負債に記載されている企業債は、翌年度以降に返済し、流動負債は当年度に返済します。

4 流動負債の(3)引当金は、賞与に充てるための費用ですが、6月の賞与が年度をまたいで算定されるため、前年度の分を計上しておくものです。

5 繰延収益の(1)長期前受金は先程説明したとおりです。

最後に、資本の部について説明いたします。

7 剰余金には、当年度未処分利益剰余金1億523万4,204円が加わり、最終的な合計が132億6,811万3,589円となりました。

1 3 ページ以降は、事業内容等の説明です。

水洗化率は、供用開始区域内の人口のうち、公共下水道を利用している人口の割合を表したものですが、平成26年度は昨年度より向上して98.5%になりました。水洗化していないところは、浄化槽又は汲み取り式を利用しています。

現在、水洗化の啓発を実施しておりますが、高齢者等の世帯では下水道への切替えのタイミングや経済的な面で水洗化が難しいこともあります。また、立地的に下水道への接続が難しい事例があるので、100%の接続は難しいかもしれませんが、引き続き努力して参ります。

水洗化の啓発については、現在、非常勤職員にも来ていただいておりますので、取り組みを継続していきたいと考えています。

2 1 ページの平成26年度和光市下水道事業キャッシュ・フロー計算書をご覧ください。これは、一年間の現金の動きです。

1 業務活動によるキャッシュ・フローは、営業収入や人件費等の現金の動きを表しています。

2 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得や建設改良等の工事に係る現金の動きを表しています。

3 財務活動によるキャッシュ・フローは、他会計からの出資や企業債の動きを表しています。

最終的なキャッシュの残高は平成27年3月31現在1億845万4,295円です。資料として添付した通帳の写しをご確認ください。

あとは、固定資産明細書、企業債明細書が添付されています。
最後の注記は、決算を作成する際の基準を定めたものです。
決算報告書の説明は以上です。

長坂会長

ありがとうございました。

下水道事業は、平成26年度から企業会計化しました。

市の公的な会計は、お金の出入りを記入する家計簿に例えられるのですが、家計簿では「財産」について表すことはできません。「財産」を表すためには、貸借対照表が使われることとなります。

たとえば、ある年に車を購入して家計簿に記入しても、翌年の家計簿で車を購入した履歴を確認することはできません。車を購入した履歴、つまり財産を確認することができるものが貸借対照表です。

損益計算書は費用を確認するものです。

つまり、財産を確認するための資料が貸借対照表と損益計算書です。

先程課長から、貸借対照表の数字から財産が約132億円であるという説明がありましたが、これが下水道事業が管理している資産のことです。

最も重要なのは、資産の管理責任をはっきりさせたということです。

数字が並んでいて分かりにくい部分もあるかと思いますが、課長の説明で分からなかった部分はございますか。

それでは私から質問させていただきます。

9ページの平成26年度和光市下水道事業剰余金処分計算書から、議会の議決対象となった部分の1億3,456万7,612円について「議会が処分した」というのはどのような意味ですか。

下水道課課長

法律第32条により、毎年度利益があればそれを欠損金に充てることとなっておりますが、条例に基づいて剰余金の処分をするか、議会の議決に基づいて剰余金の処分をするという2種類の方法があるため、和光市下水道事業は議決により剰余金の処分を決定したということです。

長坂会長

本来なら、処分可能額は1億523万4,204円になると思うのですが、これまでの分は既に処分したために1億3,456万7,612円となったのですか。

下水道課課長

長期前受金については、平成26年度から会計制度が新会計制度に移行し、下水道事業は平成26年度から公営企業会計がスタートしたので、平成26年度の分だけ長期前受金戻入分のマイナスが生じました。なお、水道事業については過去の分を清算

する必要がありましたので下水道事業の状況とは異なります。

長坂会長

民間だと、約1億500万の中から処分をするため、このようなことはありえないことです。あらかじめあった数字を議会に承認してもらったためこのような結果になったのですね。

下水道課課長

はい。下水道事業については、公営企業会計がスタートした時点で一度清算をしているため、今年度分のみを処分しました。

長坂会長

分かりました。

続いて、11ページの(2)無形固定資産のイ施設利用権について質問します。

無形固定資産は、負担金を支払うごとにこの科目に計上されていくということですか。毎年度計上し累計が示されていきますか。

下水道課課長

はい、累計の額が表されています。

長坂会長

来年度も同額ですか。

下水道課課長

いいえ、毎年度異なります。

長坂会長

償却分が入っていますか。

下水道課課長

無形固定資産の減価償却の額が計上されています。

決算報告書の27ページと28ページをご覧ください。

長坂会長

今年払ったのは約1,700万円ですか。

下水道課課長

これは増加額です。

長坂会長

今年は1,900万を償却したということですか。

下水道課課長

28ページの約1,900万円が償却額です。

長坂会長

それでは、当初から施設利用権があったということによろしいですか。

下水道課課長

期首にも施設利用権を計上しておりました。

長坂会長

資産として計上しているということですね。毎年度支払った分を足して、償却分を差し引いているということですね。

下水道課課長

はい。

船越委員

決算報告書35ページの「セグメント情報」とは何ですか。

下水道課課長

企業がどういう活動を行うかということです。和光市下水道事業は下水道のみですが、いくつか事業を抱える場合がありますのでその場合はその区分を示します。

たとえば、交通事業では、路面電車、バス、モノレールなどがあります。

新会計制度で定められたものです。

先程会長からご指摘いただいた施設利用権についてですが、本来はもとの金額と追加された金額と償却された金額を示さなくてはならなかったものですので、次年度以降対応いたします。

長坂会長 新制度が開始して、下水道の資産を管理できる状態になりましたので、きちんと管理をしていただきたいと思います。

下水道課課長 分かりました。

長坂会長 今後、市においても、会計の仕組みが変わる予定があります。

下水道課課長 資産の洗い出しは、やはり上水道や下水道が難しいですか。

下水道課課長 いえ、道路等、価値の算出が難しいものがたくさんあるため、上下水道事業が難しいとは言えないと思います。

長坂会長 他に質問等がある方はいらっしゃいますか。

下水道課課長 無いようですので、以上で平成26年度の決算報告書の説明を終了とします。

下水道課課長 今年度は企業化してから初めての決算でしたので、次年度以降も精進していきたいと思えます。

長坂会長 よろしくお願ひします。

下水道課課長 それでは、次の議題に移ります。

下水道課課長 上半期の業務状況の説明をお願いします。

下水道課課長 平成27年度上半期の業務状況説明書をご覧ください。こちらは、年に二回の報告が定められていることから作成しており、平成27年9月30日現在の数字が入っています。

下水道課課長 同じ内容について、広報わこう12月号にも掲載する予定ですが、今回は広報よりも少し詳しく説明していきます。

下水道課課長 まず、使用料の収納額は、昨年度の同期に比べ2.9%の増加しています。

下水道課課長 続いて支出ですが、上半期は、大きい工事が年度の後半に集中することから支払いが行われなため、非常に少なくなっています。3ページの円グラフを併せてご覧ください。

下水道課課長 管渠費の支出の割合が低く、純利益が非常に多くなっていますが、今後、下半期に支出が集中することから、純利益の割合が下がることが予想されます。

下水道課課長 以上のとおり、事業の特性からお金がたくさん残っているように見えますが、現在、経理上及び工事上の問題はございません。

下水道課課長 上半期の大きな工事としましては、昨年豪雨の影響を受けた箇所の工事が挙げられます。北原小学校付近の県道の交差点付近について、6月から7月にかけて埼玉県との協力を求めながら、内径90センチメートルの雨水管を延長し、雨水対策を講じました。最近豪雨はありませんが、工事後は台風等の降雨時において雨水のトラブルに関する報告は受けておりませんので、成果があったものと考えております。なお、雨水対策に関しては、市は他にも道路安全課において柿ノ木坂湧水公園付近等の雨水対策を進めております。

下水道課課長 また、雨水対策に関する次年度以降の取組として、下水道事業では、新河岸川の下

流から竹の下通りのあたりに約700メートルの延長で雨水管を入れる工事の調査・設計に着手していくことを予定しています。このように、今後は、雨水対策も進めていかななくてはならないと考えております。

汚水については、和光国際高校付近に汚水管が入っていないため、管を入れるための調査等を行うことを予定しております。これにより、収入の増加も見込まれるものと考えております。このことについては、下半期に設計を進めていく予定です。

平成26年度上半期の業務状況に関する説明は以上です。

長坂会長

上半期の業務状況について、質問はありますか。

公営企業会計は半期決算があるのですね。

下水道課課長

半年ごとの報告が条例により定められています。

ここでひとつ報告をさせていただきます。

当審議会の委員の萩原様ですが、和光市婦人会を退会されたため、今後は公募の委員に準じる委員として所属していただきます。

よろしく願いいたします。

萩原委員

よろしく願いいたします。

下水道課課長

また、来年度は委員改選の年に当たりますので、継続の意思のある方はぜひお願いいたします。

また、今後、荒川右岸流域下水道の新河岸川水循環センターの見学等を実施したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

長坂会長

以上で、第9回和光市下水道事業運営審議会会議を終了いたします。

ありがとうございました。